

【目次】

1. はじめに	1
2. アプローチ	
2-1 現状分析	2
(1) ASIAN のニーズ (K Asian)	2
(2) KANSAI のシーズ (漢雑)	3
2-2 課題認識	4
(1) ASIAN から見た関西の魅力	4
(2) ASIAN から見た関西の課題	5
(3) まとめ	6
2-3 ベンチマーク	6
(1) 観光振興	6
(2) 産業振興	7
(3) 移住振興	8
(4) まとめ	9
3. 提言	
<u>提言Ⅰ 観光振興で Amenity Power Spot 関西を実現すること</u>	10
<u>提言Ⅱ 産業振興で Business Power Spot 関西を実現すること</u>	11
<u>提言Ⅲ 移住振興で Community Power Spot 関西を実現すること</u>	12
4. おわりに	14
【活動体制／活動記録／名簿】	15
【付録 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8】【資料 1, 2】	22

1. はじめに

国難とも言える現状を打破して、日本が元気を取り戻すためには、多種多様なソフトパワーを持つ関西の地域力を発揮し、台頭するアジアのパワーを取り込み、関西が、アジアそして世界に開かれた人流・物流・資流・知流の中枢となることが求められている。

その一方で、関西の現状は、生産年齢人口の減少や経済の低迷が続いている。

当委員会では、昨年度から2年間にわたり、このような課題意識から、アジアの人から見た関西の魅力やニーズを把握し、それに応える関西の持つシーズや可能性、加えて新たな魅力について評価検討してきた。

昨年度は、アジアの人から見た関西の魅力や課題について、関連機関や有識者へのヒアリングを中心に調査研究を行い、関西統合型リゾート(KIR)¹を「舞洲」に建設することで地域経済発展の新たな拠点作りを提言した。

今年度は、それまでの委員会の議論を踏まえ、観光振興、産業振興、移住振興の3つの観点から、関西が一体的に連携し、アジアの視点での魅力を発信・提供することで、多くのアジアの人から関西が選ばれる方策を研究し、関西がアジアのAmenity²、Business、Community Power Spot³ (ABC-PowerSpot)となるべく提言をまとめた。

この過程で、KANSAIという言葉や響きを持つ深い意味や言霊についても再発見できた。

第2章のアプローチでは、まず、既存の様々なデータからアジアの人の日本へのニーズ、関西の持つシーズの現状を分析した。この結果をベースに、当委員会主催の講演会、ヒアリングから、関西の魅力と関西の課題を抽出し、この課題解決のために、視察調査などのベンチマークを行った。

第3章では、第2章までの結果を踏まえ、3つの視点から、アジアから関西が選ばれるための提言を行った。

¹ KIR: Kansai Integrated Resort (付録6、資料2)

² Amenity:市場価格では評価できないものを含む生活環境であり、自然、歴史的文化財、街並み、風景、地域文化、コミュニティの連帯、人情、地域的公共サービス(教育、医療、福祉、犯罪防止など)、交通の便利さなどを内容としている

³ PowerSpot:多様な人々が入り交じり、活気あふれ、新しいことが起こり、元気の出る地域

2. アプローチ

2-1 現状分析

アジアの人の関西に対するニーズを把握するために、まず、アジアの人の日本に対するニーズ分析をすることが必要である。KANSAI という言葉を並べなおすと、K-ASIAN となる。そこでKというキーワードで様々なアジアの人の日本に対するニーズについて整理すると(1)の①から⑦に分類できることが分かった。次に、関西が持つシーズは、漢雑(かんさい)ということで、様々な KANSAI という音を持つ漢字に当てはめ、(2)の①から⑦に分類することができた。

このことから、アジアと関西のかかわりが言葉の上でもいかに深いかが認識された。

(1) ASIAN のニーズ (K-Asian)

ASIAN のニーズ分析にあたって、K がつく言葉を用いた以下の7つの分類で、関連データを付録1のように収集した。その結果、以下のことが分かった。

①教育・研究(留学生／研修生)

- ・ 中国、韓国は親日国ではないが、日本に来る留学生比率は高い。
- ・ インド、インドネシア、マレーシア、ベトナムは、親日国ではあるが、欧米への留学生の比率が高い。

②起業・勸業(投資家／事業主)

- ・ 中期では、中国、インド、ベトナム、タイ、インドネシア、韓国、台湾を有望な国と捉えている。
- ・ 長期的には、インド、中国、ベトナム、タイ、インドネシアを有望な投資対象として捉えている。
- ・ 中長期とも日本は投資対象として視野には入っていない。

③勤労・稼業(ビジネスマン／技術者)

- ・ フィリピン人の職業トップを見ると、日本ではなかなか就けない看護師や電気工事士のような資格の必要な職業にも日本以外の海外で多く就労していることが分かる。

④健康・介護(患者／老人)

- ・ アジア諸国では、タイ、シンガポール、インド、マレーシアで医療ツーリストを多く受入れ、大きな収入源となっている。
- ・ また、韓国は2009年に医療法改正し、2020年に100万人の医療ツーリスト受入れを考えており、日本の対応には大きな遅れがある。

⑤暮らし・居住(長期滞在者／永住者)

- ・ 大阪は、意外にも、アジアで一番暮らしやすい都市にランクされている。

⑥鑑賞・経験(趣味人)

- ・ アニメ、まんが、ゲーム、ファッション、日本食に関心を持つアジア人は多い。
- ・ 逆に、日本の映画、音楽、伝統文化や地域ブランドへのアジア人の関心は低い。

⑦観光(観光客)

- ・ 初来日の目的として、食、買い物、繁華街の街歩き、自然・景勝地としているが、リピート時は、スキー、ゴルフ、四季の体感・温泉入浴など経験型の観光を目的としている人が多い。

(2) KANSAI のシーズ(漢雑)

KANSAI のシーズ分析にあたって、以下の7つの分類で、関連データを付録2のように収集した。その結果、以下のことが分かった。

①冠最(学術／研究／教育／産業／事業展開)

- ・ ノーベル賞受賞者を数多く輩出している京都大学、大阪大学などの世界に冠たる大学や、関西文化学術研究都市、神戸医療都市などの世界の最たる産業集積地がある。

②観彩(コンテンツ／ソフト／イベント／エンターテインメント)

- ・ 関西にある博物館と映画館の数は全国1位であり、宝塚歌劇や吉本興業など、多くの集客数を誇る独特のエンターテインメントがある。

③歓祭(関西とアジアの競演／人の入り交じりの場づくり)

- ・ Sibos2012大阪(国際金融グローバルフォーラム)の成功のように、関西では毎年500件程度の国際会議が開催され、約25,000人の外国人参加者が訪れている。
- ・ 祇園祭、天神祭など日本の歴史・文化を象徴する祭りも多い。

④貫歳(歴史を貫く世界遺産／名所・旧跡／新名所)

- ・ 関西には世界遺産スポットが5箇所、国宝も600、重要文化財も6000件あり、アジア有数の歴史文化拠点と言える。

⑤勘才(伝統芸能／工芸／文化／伝統発のイノベーション)

- ・ 歌舞伎、能・狂言、文楽、雅楽など日本が世界に誇れる古典芸能は関西が発祥であるものが多い。
- ・ 清水焼、信楽焼や西陣織、京友禅、堺打刃物、奈良筆などの伝統工芸も盛んである。

⑥感菜(多様な食の文化／関西が育む酒食との遭遇)

- ・ 茶道は16世紀に大阪で生まれ、懐石料理は茶道から派生し京都で生まれた。
- ・ ミシュランガイドがあるのは、アジアでは、東京、香港と関西(大阪、京都、神戸、奈良)のみである。

⑦巻財(関西の様々なシーズを取巻くサポート環境)

- ・ 4,000メートル級の複数滑走路やLCC専用ターミナルを持ち、完全24時間運用可能な海上空港である関西国際空港と国内各地と関西を結ぶ都市型HUB空港として位置づけられる大阪国際空港や大型客船が多数入港する神戸港などがあり、さらには高速道路網や鉄道網が発達している。

2-2 課題認識

関西では、2005年から2015年までの10年間で2.5%の人口減少が予測されているが、15歳未満では16%減少し、15歳～64歳のいわゆる生産年齢人口は11%減少、逆に65歳以上の高齢人口は36%増という少子高齢化・生産年齢人口減少時代を迎えている。また、2012年度のGDP前年比は名目、実質とも全国平均を大きく下回っている。(付録3)

このような課題認識を踏まえ、さらに、2-1の現状分析をベースに、当委員会主催のタイ、インドネシア、韓国の各知識人による講演会や、関西在住アジア人や、アジア関連諸団体へのヒアリングによって以下の3つの分野でアジアから見た関西の魅力と課題について整理した。(P16委員会の活動記録、付録4)

(1) ASIAN から見た関西の魅力

<歴史・文化・観光>

- ・ 日本の歴史文化の中心地である。
- ・ 温泉、食、建築、伝統文化など多彩な地域である。
- ・ ドラマ、アニメ、ゲーム、JPOPなどのソフト文化に興味を持っている。
- ・ 歴史と文化の薫り高い京都、奈良、港町の風情が色濃く漂う神戸に関心が高い。
- ・ 交通インフラについては、関西国際空港と大阪国際空港を一体的に運営する新関西国際空港(株)ができ、LCCの拡大などでアジアからのアクセスが良い。また、神戸港、大阪港が一体となった阪神港は、クルーズ客船などの大型客船の入港も可能である。

<研究開発・産業>

- ・ 特色ある産業(繊維・化学・医薬品・家電・電子部品・半導体)や技術(環境エネルギー・医療技術、中小企業を含めた巧みの技術)がある。
- ・ 高い技術、高品質、信頼性の高い商品、サービスで関西企業は魅力的なパートナーとなる。

- ・ 京都大学、大阪大学、また、関西文化学術研究都市、京コンピューターなどレベルの高い教育機関や研究施設があり、研究・開発の中心と言える。
- ・ 再生医療や先端医薬品など高度医療に期待している。
- ・ ビジネス提携やビジネスマッチングなどを求めて関西を訪れるアジア人が多い。

<人・生活>

- ・ 関西の人は情熱的でおもてなしの心を持っている。
- ・ 神戸元町の中華街、大阪の心斎橋はにぎやか好きな中国人にとって興味深い街。
- ・ 韓国人、中国人、インド人のコミュニティが存在し、親しみやすい。
- ・ 安心、安全で暮らしやすい地域。
- ・ 首都圏に比べて比較的安価に生活ができる。

(2) ASIAN から見た関西の課題

<歴史・文化・観光>

- ・ MICE⁴機能が分散し一体連携していない。
- ・ 関西の認知度が低く、情報発信も少ない。
- ・ 大阪、京都など取り組みがばらばらでアジアから見た関西がまとまって見えにくい。
- ・ 観光客に対する利便性が低い。(案内板の多言語化、観光通訳、交通網の整備など)
- ・ 日本の物価が高いイメージが固定化している。
- ・ ビザが取得しにくい。

<研究開発・産業>

- ・ 大学などの入学制度などのグローバル化が遅れている。
- ・ アジア諸国との産学連携が弱い。
- ・ 日本の企業と提携したいが、どうすればいいかわからない。
- ・ 日本でビジネスを開始する際、たとえば、技術のある日本企業を探す場合に、得られる情報が少ない。
- ・ 法人税やエネルギーコストが高く、進出しにくい。
- ・ FTA 交渉にも熱心でない。
- ・ 日本で商売をしたくても手続きが複雑で法規制も厳しい。
- ・ 商談時の通訳者が少ない。

<人・生活>

- ・ アジア各国で、日本語を学ぶ学生が減ってきている。
- ・ 定住するには日本語の壁や文化の壁がまだある。

⁴ MICE: Meeting, Incentive, Convention/Conference, Exhibition

- ・ 高校留学時にホストファミリーが見つかりにくい。
- ・ 留学するには、生活費が高いがアルバイトに制約がある。
- ・ アジアからの留学生は就職できれば日本に定住したいと思う人は多いが、卒業しても仕事が見つかりにくい。
- ・ 医療通訳が少なく安心して治療を受けにくい。
- ・ 看護師・介護福祉士試験が難しすぎる。
- ・ アジア人に偏見を持つ日本人も多い。

(3)まとめ

以上の3つの分野を、＜歴史・文化・観光＞＝KAN:観光振興、＜研究開発・産業＞＝SA:産業振興、＜人・生活＞＝I:移住振興とみると、ここでもKANSAIという言葉と強化、実施すべきことが結びつく。この3つの視点で、アジアの人からみた関西の魅力をオール関西で積極的に活用しながら、アジアの人からみた関西の課題を解決する施策を提言し、実践することが、関西がアジアから選ばれ、多くのアジアの人が関西を訪れ、その結果、関西を元気にすることにつながると考える。

2-3 ベンチマーク

上記の課題認識をベースに、調査研究あるいは現場視察などを行った結果、それぞれの振興策について有力なベンチマーク先を例示して以下に述べる。

(1)観光振興

①過去の提言

- ・ 過去の関西経済同友会の観光関連の提言分析から、関西の新たな魅力をつくること、アジアの様々な言語に対応した生活環境をつくること、関西の魅力をうまく発信することが重要であることが分かった(付録5)。

②KIR

- ・ 昨年度の当委員会の提言に示したようにシンガポールやメルボルンの観光客や税収の伸びは、マリーナベイサンズやセントーサ島やクラウンエンターテイメントコンプレックスなどのカジノを含む統合型リゾートの影響が大きいことが分かった(付録6、資料2)。

③デジタルアーカイブ

- ・ 欧米の博物館では、コンテンツをデジタルアーカイブ化することにより世界に発信し、集客に結び付けている (<http://www.jagat.or.jp/vehicle/TITLE/206saitou.asp>) 。

④阪急ツーリストセンター

- ・ 梅田の観光案内所「阪急ツーリストセンター」では、アジア人留学生を使って、日本語、英語、中国語、韓国語の 4 カ国での案内がされており、アジアからの観光客に好評を得ている(<http://umeda.keizai.biz/headline/1252/>)。

(2)産業振興

①シンガポール EDB

- ・ シンガポールは約 7,000 社の多国籍企業が拠点を有し、一人当たりの名目 GDP では日本を抜いてアジア 1 位である。このような発展の原動力は、1961 年にシンガポール政府によって設立された経済開発庁 (EDB) であり、進出企業向けに、入国管理、資金調達、ベストのインフラ、人材、税率 (法人税 17% など) をワンストップで提供している (付録 7)。

②台湾

- ・ 台湾貿易センターは、1,000 を超える常設展示場を備えた国際展示場、3,000 人ホールを有する国際会議場、グランドハイアット台北ホテル、ランドマークである台北 101 がコンパクトに集積され、さらに、韓国の大韓貿易振興公社 (KOTRA) などの各国貿易事務所も入居しており、年間 500 万人のビジネスマンを中心に集客している (付録 8)。
- ・ 台湾の行政院世界企業誘致総合サービスセンター (Invest Taiwan Service Center) では、30 名の専門スタッフが常駐し、台湾への進出企業に対して、マーケティング情報、土地、人材の探索、会社設立のための各種手続きから従業員の生活支援にいたるまでワンストップで無料サービスを提供している。
- ・ 新竹サイエンスパークは、台湾で最も発展した地域であり、半導体、PC 産業、ディスプレイ産業が集積し、477 社、15 万人の雇用を生み出し、約 3 兆円の売上高を誇っている。この原動力となったのが、工業技術研究院 (ITRI) であり、米国シリコンバレーや隣接する精華大学や交通大学と連携し、ベンチャー起業促進を図り、産業エコシステム (研究、開発、材料、部品、組み立て、物流、販売までの様々な企業群をネットワーク化した産業クラスター) を構築することで産業育成を行っている。

③韓国 KOTRA

- ・ 韓国 KOTRA は、①顧客中心の考えをベースに顧客が望む最高のサービス提供、②創意的、情熱的な姿勢で、新しい市場を開拓、③献身と奉仕する姿勢で社会貢献に率先した取組み、④グローバルマインドを備えたグローバル人材を育成し韓国経済の発展に寄与、をコンセプトとして、世界 119 箇所で、貿易振興、投資誘致の活動を展開している。

(P18 当委員会主催講演会「韓国の産業政策と KOTRA の取り組み」)

- ・ また、KOTRA は、政府と一体となり、韓国への投資企業のため、立地支援（情報提供、租税減免：例えば、条件によっては最初 5 年間 100%、さらに 2 年間 50%減免されるなど）、雇用創出補助金、低い法人税（24.2%）、電気、水など安価なインフラ費、知的財産権保護環境をワンストップで提供している。

④O-BIC

- ・ 大阪では、府・市と大商が連携し、大阪外国企業誘致センター（O-BIC）を設立し、大阪への進出を希望する外国企業、外国公館・経済団体、また大阪に 2 次進出を希望する在日外資系企業に対して、必要とされる情報を提供し、的確なアドバイスをするなどキメ細かなサポート体制が整ったワンストップ・サービスを提供する基盤を有している。
(<http://o-bic.net/j/>)

⑤INVEST 関西会議

- ・ 近畿経済産業局は、関西経済連合会、JETRO大阪本部、近畿商工会議所連合会との連携で、INVEST 関西会議を発足させて、関西広域の対日投資促進に関する各種方策検討やワンストップサービス窓口「INVEST 関西デスク」をJETRO大阪本部 対日投資・ビジネスサポートセンター（IBSC）内に設置している。
(<http://www.invest-kansai.jp/index.php>)

⑥「うめきた」

- ・ 「うめきた」では、2013 年春に、「未来が生まれ、大阪が変わり、時代が動き出す」というコンセプトのもと、グランフロント大阪がオープンする。そこは、大阪の中心であるだけでなく、一日平均 250 万人が乗降し、京都、神戸から 30 分、関西全域とも強くつながっている場所である。また、関西国際空港、大阪国際空港などへのアクセスも容易で、国内はもちろんアジアや世界と結びつく力をもつ場所である。
(<http://www.grandfront-osaka.jp/>)

(3) 移住振興

①過去の提言

- ・ 一昨年度、関西経済同友会の「アジアとの共生を考える委員会」では、人材交流で関西に活力を与えるため、留学生に着目し、関西に呼び込み、育て、定着させる方策を検討した。その結果、留学生を呼び込むためのマーケティング、奨学金制度や住宅などの受入環境の整備、日本人との交流の場の設定などが重要であることが分かった。
(付録 5)

②大阪府専修学校各種学校連合会

- ・ 大阪府専修学校各種学校連合会では、大阪府と連携し、優れた留学生を呼び込み大阪の国際競争力を強化するため、大阪の魅力発信、アジア各国での日本留学プロ

モーション、受入支援、奨学金制度、生活支援、就職支援などをワンストップで提供する計画を進めている(付録9)。

③NGO/NPO

- ・ アジア協会アジア友の会(NGO)では、「誰もが生きていて良かったと思える」社会を目指し、アジア各国で安全な水の確保や教育支援などを行い、関西のイメージアップ、ファン作りを行っている(付録4)。
- ・ 関西アジア人協会(NPO)では、在日アジア人と日本人の友好・親善を深めるため、各国領事館と連携し、チャリティアジア歌謡祭の開催、アジア人から見た日本を語る会、アジア料理と楽しむ会などを主催している(付録4)。

④移民政策委員会

- ・ 移民政策に関しては、様々な意見があるが、留学生を受け入れ、育て、定住させるような育成型の移民政策に反対する人は少なかった。
(P17 当委員会共催講演会「移民国家宣言～人口減少と移民受け入れについて～」)

(4)まとめ

以上のベンチマークから、成功のポイントは、

K: 知識やノウハウ、キラーコンテンツ(Knowledge、Knowhow/Killer Contents)を

A: 集約・集積(Aggregate/Accumulate)し、

N: ネットワーク化(Network)して、

S: ワンストップで提供(Simplify)し、

A: それを広くアピール・アナウンス(Appeal/Announce)することであり、

I: 特に上記を主体的かつ強力に牽引する組織(Initiative)が大切であることが分かった。

すなわち、『KANSAI』が重要である。

この考え方をベースに以下、当委員会の提言を行う。

3. 提言

(資料1)

KAN: 観光振興、SA: 産業振興、I: 移住振興で、ASIA の Amenity Business Community-Power Spot 関西を実現し、関西の元気を取り戻そう！

提言 I 観光振興で Amenity Power Spot 関西を実現すること

昨年度、当委員会の提言した関西統合型リゾート(KIR)の早期実現を図ること！

具体的には、関西地域振興財団、大阪観光コンベンション協会や関西・大阪 21 世紀協会など必要な部署が近畿運輸局などと連携し、ワンストップで以下の推進を行うこと。

これによって、KIR を HUB に関西のシーズが有機的に結びつき関西全体が Amenity Power Spot となる。

(1) 関西の魅力発信

- ・ 関西は魅力のある日本文化や先端産業の集積地であることや、治安も安定しており、より安全な生活ができるということを以下の形で具体的に発信していく。
- ・ 外国向けポータルサイト／外国メディアの招聘／SNS の活用して、関西の魅力やイベント、ビジネス、観光、留学、生活、行政、緊急防災など様々な情報をタイムリーに英語やアジア諸国の言語で世界に発信する。

(2) 必要な法規制の緩和などの国への要求も含め、統合型リゾート運営会社の誘致推進

- ・ 観光振興、産業振興、移住振興に寄与する誘致条件をカジノ依存症対策など含めて検討する。
- ・ KIR 導入における収益構造や関西経済における効果を明確にする。

(3) KIR の関西ミュージアムについては、以下の機能を持たせるように推進

- ・ 関西の文化・芸術・伝統(Killer Contents)の映像をアーカイブ(Accumulate)し、各地の観光コンベンションセンターなどと連携し(Network)、チケットから、ガイド、IT 機器貸し出しまで簡単にして(Simplify)、PR(Announce)し、観光集客(Invite)につなげる。
- ・ 産業情報発信機能(産業振興との連携、デジタルアーカイブで中小企業の技術紹介、MICE 機能の充実でアジアのバイオ企業や大学との交流など)を備える。

(4) アジアからの留学生に観光ガイドを必須単位化

- ・ 移住振興との連携を図る(ガイド中の旅行客の感想や課題を経路情報とともに把握し、マーケティングに活用する)。

提言Ⅱ 産業振興で Business Power Spot を実現すること

関西の中心地にあり、交通至便で多くの人々が集いやすい「うめきた」を HUB とした産業振興ワンストップサービスを実現すること！

具体的には、関西へのインバウンド誘致組織(近畿経済産業局、ジェトロ、関連自治体、関連団体)の連携窓口(コーディネータ)を置き、ワンストップで以下の推進を行うこと。

これによって、「うめきた」を HUB に新しい産業が起こり、発展し、関西全体が Business Power Spot となる。

(1) 関西の魅力発信(観光振興と共通だが、特に展示会情報やビジネス観光などの産業振興の観点重視した発信とする)

(2) アジアの政府・大学・企業の関西地区への誘致推進

- ・ 韓国KOTRA、台湾ITRI、シンガポールEDBなどのアジア各国の産業振興部門の関西オフィスを「うめきた」に誘致し、情報交換や産業創出共同推進体制を構築する。
- ・ 関西企業・大学のシーズ情報提供・プロモーション、地域・市場情報、インセンティブ(規制緩和、優遇制度)情報、中小企業技術マッチング、交渉支援(通訳)、土地・建物紹介、人材紹介、法的手続き支援(会社登記、各種契約)、経営支援、生活環境支援などをワンストップで提供する。
- ・ 特に、優れた関西の中小企業の技術とアジアの企業・関連機関との連携やマッチングを推進するで、アジアのニーズに応える。
- ・ アジアの企業がさらに進出しやすい環境づくりのため、FTA の積極締結、法人税の引き下げや、安価なエネルギーの提供について、強く国に働きかけていく。

(3) 関西イノベーション国際総合戦略特区とアジア企業・大学との連携推進

- ・ 関西イノベーション国際総合戦略特区の地域協議会や分野専門部会と連携し、研究開発から商品化、市場形成にいたるまでのビジネス・エコシステム(エコロジー生態系)を描き、そこに必要なプレーヤーをアジアの大学や企業を含めた形でプロジェクト化し、推進する。
- ・ 特にライフイノベーションでは、神戸医療産業都市、北大阪、京都市内の特区と連携を強化して、国際共同治験やコホート研究⁵など、多くの実証や事例収集が必要なテーマについては、海外大学、企業、病院などの連携を図る。
- ・ また、再生医療など先端医療技術や PET など高度検診技術をアジア各国からのメディカルツーリズム促進の起爆剤として位置づけて推進する(アジアの患者ばかりでなく、アジアの医師や看護師の教育も兼ねて推進し、必要な規制緩和も国に要望していく)。
- ・ 将来、ライフイノベーションにおける国際標準化が必要なテーマをあらかじめ洗い出し、日本が主導してアジア各国と協力し、国際標準化議論を進める。
- ・ 連携を通じて医療関連のアジアの大学、企業の関西への進出を加速させる。

⁵ 特定の地域や集団に属する人々を対象に、長期間にわたってその人々の健康状態と生活習慣や環境の状態など様々な要因との関係を調査する研究

(4) アジアとの新規事業創造のためのアジアビジネスコンペ

- ・ 留学生やアジア人のアントレプレナーを対象にビジネスコンペを主催し、斬新な起業家に資金援助する。

提言Ⅲ 移住振興で Community Power Spot 関西を実現すること

「うめきた」を HUB とした来日促進～受入支援～教育～就職～定住支援の移住振興ワンストップサービスを実現すること！

具体的には、関西の留学対応組織(関西の各自治体および交流機関、高校、大専各、大学、大学院)の連携窓口(コーディネータ)や留学生交流サロンを置いてワンストップで以下の推進を行うこと。

これによって、「うめきた」を HUB にアジアの人の交流が盛んになり、関西全体が Community Power Spot となる。

(1) 関西の魅力発信(観光振興と共通だが、特に大学紹介や受入支援情報などの移住振興の観点を重視した発信とする)

(2) 留学プロモーション

- ・ 国内外の教育機関や経済団体と連携して、アジア各国での日本留学プロモーションを行う。(関西各大学、専門学校、高校などの留学生制度をワンストップで活用できる仕組みづくり)

(3) 留学生受入支援

- ・ 保証人制度の見直しなど、必要な規制緩和を国に要望し、受入環境を整備する。
- ・ 事務諸手続きなどの支援や生活支援を行う(アパート提供、母国人および日本人などのホストファミリーを紹介する)。
- ・ 奨学金制度の充実や有償インターンシップ(観光通訳、医療通訳、医療看護など)を推進する。

(4) 教育／生活支援

- ・ 日本語教育体制の確立(現地、日本) 日本語教師の資格認定制度の確立、留学生に対する日本語教師陣による語学学習を充実する。
- ・ AAH(Asian Academic High School)制度を創設する(アジアからの高校留学生を受け入れ、英語と日本語による授業を行う特定高校、日本人の比率50%未満)。
- ・ 看護師試験などの制度改革(資格試験の外国人合格率のアップ、英語による専門試験など)を国に要望する。
- ・ 英語での履修可能な学科・学部を増設する(特にグローバル 30 の参加大学)。
- ・ 単位互換制度(関西一円でアジアの大学との単位互換のスキームなど)を整え、アジアからの留学を促進する。
- ・ アジア人との交流行事の拡大や学生(日本・外国人)の交流参加の必須単位化を図る。

(5) 就職支援

- ・ 関西の企業でのインターンシップの拡大、就職活動支援(エントリーシート作成、模擬面接など)を推進する。
- ・ 起業活動支援(ベンチャーコンテストやベンチャーキャピタル紹介、事業計画、会社設立手続き、ハンズオンなど)を行う。
- ・ 今年度から法務省により高度人材に対する「学歴」「職歴」「収入」などの評価をベースにしたポイント制による出入国管理上の優遇制度が導入されたが留学生にとってハードルが高いため、ポイント基準を見直すとともに、永住権取得可能となるまでの留学生の就職後のキャリアパスをきちんと見える化する。

(6) 定住支援

- ・ NPO 法人の活動などを利用し、アジア人同士、日本人とアジア人、母国人コミュニティ間の連携を促進する。
- ・ 在留資格に関する制度や規制が様々あるが、高度人材および留学生に関してはさらなる規制緩和を国に要望する。

4. おわりに

3つの提言は、すべてに強いつながりがあり、関西が一体となり、制度設計の変更や規制緩和を含めたワンストップサービスを実現する全体推進体制づくりが大切である。本提言をベースに、関西広域連合や関西地域振興財団を中心に、関西の関連経済団体、自治体が具体化検討を始めるべきである。

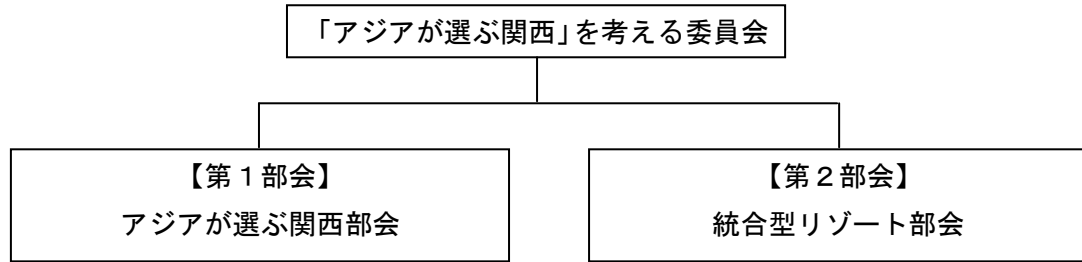
提言で示したそれぞれの機能は、将来的には、関西州の観光振興局、産業振興局、移住振興局として発展することが期待できる。また、コスト的には、KIR の収益を充当すれば、様々な施策を打つことができると考える。

関西州 (Kansai State) を目指し、国、自治体の関連機能を集約 (関採 : Aggregate) し、関西が一体連携 (環催 : Network) し、心のこもったおもてなし (寛際 : Service) を、アジアの国々／人々に発信 (刊載 : Announce) し、多数の集客・企業誘致・定住者を喚起する (還再 : Invite)、アジアに愛され選ばれる関西の実現に向け、上記提言が実行されることを願ってやまない。

以上

I. 委員会の活動体制

【23年度：第1部会、第2部会の2部会で推進】



「アジアが選ぶ関西」 を考える委員会	<p>■研究課題</p> <p>①現状把握 アジアから見た関西の現状と課題について、幅広く研究・調査を行う。</p> <p>②課題分析・論点整理 高度教育・研究、医療・環境などの先端産業・事業、歴史・食・アニメ・芸能・工芸などの多様な文化、観光・イベントなどの観点から、アジアのニーズ、関西のシーズや可能性、新たな魅力となる統合型リゾートなどの課題を分析し、論点を整理する。</p> <p>③まとめ 上記①②を踏まえ、今後の方向性やあるべき姿について提言をとりまとめる。</p>
【第1部会】 アジアが選ぶ関西部会	委員会研究課題の①、②について調査・研究を実施。
【第2部会】 統合型リゾート部会	委員会研究課題のうち特に②の「統合型リゾート」に関する調査研究を行い、提言としてとりまとめる。

【24年度：1委員会として推進】

「アジアが選ぶ関西」を考える委員会

「アジアが選ぶ関西」 を考える委員会	<p>■研究課題</p> <p>①アジアから見た関西の現状と課題について、観光振興、産業振興、移住振興の観点から研究・調査を行い、関西にアジアのABC-PowerSpotを実現するための方策について検討を行う。</p> <p>②ABC-PowerSpotの実現に必要な、それぞれの振興分野でのワンストップサービス導入について検討を行う。</p> <p>③まとめ 上記①②を踏まえ、前年度の提言も含め、今後の方向性やあるべき姿について提言をとりまとめる。</p>
-----------------------	--

Ⅱ. 委員会の活動記録

(役職は当時)

年月日	内 容
2011年 6月20日	【「アジアが選ぶ関西」を考える委員会】 正副委員長会議
6月28日	【統合型リゾート部会】 ヒアリング ・大阪府立大学 21 世紀科学研究機構特別教授 大阪府立大学観光産業戦略研究所所長 橋爪紳也 氏
7月11日	【アジアが選ぶ関西部会】 部会会合
7月14日	【統合型リゾート部会】 ヒアリング ・(株)プランテック 総合計画事務所 代表取締役 来海忠男 氏
7月29日	【統合型リゾート部会】 講演会 ・講師 大阪府立大学 21 世紀科学研究機構特別教授 大阪府立大学観光産業戦略研究所所長 橋爪紳也 氏 ・演題 統合型リゾートと地域の魅力構築を考える～IR の最新情勢について
8月22日	【統合型リゾート部会】 部会会合
8月25日	【アジアが選ぶ関西部会】 ヒアリング ・関西広域機構（現：関西地域振興財団）主任調査役 長尾正博 氏 ・歴史街道推進協議会 企画調査部長 松枝健夫 氏
9月8日	【アジアが選ぶ関西部会】 ヒアリング ・太平洋アジア交流センター 専務理事 藤田賢次 氏
9月13日	【アジアが選ぶ関西部会】 ヒアリング ・大阪観光コンベンション協会 常務理事 塩入栄 氏
9月14日	【統合型リゾート部会】 ヒアリング ・(株)グローバルミックス 代表取締役 勝見博光 氏
9月21日	【アジアが選ぶ関西部会】 ヒアリング ・アジア協会アジア友の会 事務局長 村上公彦 氏 ・大阪 21 世紀協会（現：関西・大阪 21 世紀協会）事務局長 佐々木洋三 氏
9月22日	【統合型リゾート部会】 ヒアリング ・大阪府都市魅力創造課
10月5日	【統合型リゾート部会】 講演会 ・ゲスト 台北駐大阪経済文化辦事處 代表 黄諸侯 氏（総領事に相当） ・講師 太平洋世界旅行株式会社 社長 呉佳玫 氏 ・演題 台湾人観光客を惹きつける日本・関西の魅力
10月13日	【アジアが選ぶ関西部会】 講演会 ・講師 Y2K Media Corp 株式会社 取締役 松尾カニタ 氏 ・演題 在日タイ人の視点で捉えた「関西の魅力と課題」
10月25日	【統合型リゾート部会】 部会会合

11月21日	【アジアが選ぶ関西部会】ヒアリング ・スリランカ料理店 経営者 サマン・ペラ 氏
11月25日	【統合型リゾート部会】講演会 ・講師 株式会社グローバルミックス 代表取締役 勝見博光 氏 ・演題 統合型リゾートによる都市再生 ～カジノを含めたエンターテインメント施設の戦略～
11月30日	【アジアが選ぶ関西部会】ヒアリング ・関西アジア人協会 事務局長 野村映次 氏
12月9日 ～15日	【統合型リゾート部会】【アジアが選ぶ関西部会】 統合型リゾート調査団 ・シンガポール (EDB 当局担当者へのヒアリング、マリーナ・ベイ・サンズ、 リゾート・ワールド・センター) ・オーストラリア[メルボルン] (クラウン・エンターテインメント・コンプレックス)
12月26日	【統合型リゾート部会】部会会合
2012年 1月20日	【統合型リゾート部会】部会会合
2月13日	【統合型リゾート部会】部会会合
2月21日	【統合型リゾート部会】 2月常任幹事会・幹事会において、小椋部会長が提言案について説明。承認される。
3月2日	【統合型リゾート部会】 大阪経済記者クラブにおいて、小椋部会長が提言を発表。
3月16日	【アジアが選ぶ関西部会】部会会合
4月2日	【アジアが選ぶ関西部会】ヒアリング ・日本アセアンセンター 観光交流部部長代理 淵上契慶 氏
4月4日	【統合型リゾート部会】 小椋部会長が、自由民主党政務調査会にて提言をプレゼンテーション。
4月27日	【「アジアが選ぶ関西」を考える委員会】正副委員長会議
6月14日	【「アジアが選ぶ関西」を考える委員会】講演会 ・講師 インドネシア総領事 イブヌ・ハディ 氏 ・演題 インドネシアからみた関西の魅力・課題 【「アジアが選ぶ関西」を考える委員会】委員会会合
7月3日	【「アジアが選ぶ関西」を考える委員会】ヒアリング ・大韓貿易振興公社 (韓国貿易センター大阪) KOTRA
9月14日	【移民政策委員会】【「アジアが選ぶ関西」を考える委員会】共催 講演会 ・講師 一般社団法人 移民政策研究所 代表理事 (所長) 坂中 英徳 氏 ・演題 移民国家宣言～人口崩壊には移民革命で～

10月10日 ～12日	<p>【「アジアが選ぶ関西」を考える委員会】台湾調査団</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済工業局（台日連携推進オフィス）、世界企業誘致総合サービスセンタ、新竹サイエンスパーク、工業技術研究院などへのヒアリング
10月24日	<p>【「アジアが選ぶ関西」を考える委員会】委員会会合</p>
11月13日	<p>【「アジアが選ぶ関西」を考える委員会】ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府商工労働部／大阪市計画調整局
11月28日	<p>【「アジアが選ぶ関西」を考える委員会】委員会会合</p>
12月6日	<p>【「アジアが選ぶ関西」を考える委員会】講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 大韓貿易投資振興公社（韓国貿易センター大阪）KOTRA 全 炳錫氏（館長）、崔 炯權氏（投資チーム チームリーダー） ・演題 韓国の産業政策と KOTRA の取り組み <p>【「アジアが選ぶ関西」を考える委員会】 委員会会合</p>

Ⅲ. 委員会名簿

2012年12月20日現在

役名	氏名 (順不同)	勤務先 (順不同)	役職名
委員長	原田 雅俊	パナソニック(株)	常務役員 関西代表
副委員長	青戸 邦彦	(株)エヌ・ティ・ティ・アド	取締役西日本営業本部長
〃	浅田 信行	(株)大林組	執行役員
〃	阿部 雅行	トップツアー(株)	執行役員大阪支社長
〃	井垣 太介	北浜法律事務所・外国法共同事業	パートナー弁護士
〃	井上 浩一	有限責任あずさ監査法人	理事パートナー
〃	今井 雅則	戸田建設(株)	常務執行役員 大阪支店長
〃	宇澤 俊記	(株)全関西ケーブルテレビジョン	取締役社長
〃	小椋 和平	三菱商事(株)	理事関西支社副支社長
〃	長村 泰彦	パナソニック(株)	理事 関西渉外室室長
〃	勝見 博光	(株)グローバルミックス	代表取締役
〃	桂 知良	山一精工(株)	取締役会長
〃	加藤 高弘	日本航空(株)	執行役員西日本地区支配人
〃	革嶋 恒徳	医療法人メディカル春日会 革嶋クリニック	理事長
〃	北島 圭二	(株)ミライト・テクノロジーズ	取締役常務執行役員
〃	北村 陽	(株)大広	取締役常務執行役員
〃	来海 忠男	(株)プランテック総合計画事務所	取締役社長
〃	木村 靖夫	京阪電気鉄道(株)	執行役員事業統括室副室長 (観光担当)
〃	久保 明代	(株)プロスパー・コーポレーション	代表取締役
〃	隈崎 守臣	(株)コングレ	取締役社長
〃	小西池 透	大阪ガス(株)	理事 広報部長
〃	酒井 真理	ピーチプロモーション(株)	代表取締役
〃	阪口 葉子	ユナイテッド航空	関西国際空港支店長
〃	佐藤 洋誓	(株)りそな銀行	執行役員
〃	志賀 茂	がんこフードサービス(株)	取締役社長
〃	柴田 信	西日本旅客鉄道(株)	取締役兼常務執行役員
〃	白水 政治	全日本空輸(株)	執行役員大阪支店長
〃	高舛 啓次	(株)ロイヤルホテル	取締役副社長
〃	辻 卓史	鴻池運輸(株)	取締役会長
〃	椿本 哲也	椿本興業(株)	取締役社長
〃	中務 裕之	中務公認会計士・税理士事務所	所長
〃	並木 竜史	セガサミーホールディングス(株)	事業開発室兼大阪支店長

〃	難波 正人	(株)竹中工務店	常務執行役員
〃	西名 弘明	オリックス(株)	取締役兼執行役員副会長
〃	長谷川 恵一	学校法人 エール学園	理事長
〃	福島 伸一	新関西国際空港(株)	取締役会長
〃	前中 弘美	(株)日本旅行	取締役兼常務執行役員 西日本営業本部長
〃	丸尾 真哉	(株)JT西日本	常務取締役
〃	三浦 清	(株)三井住友銀行	常務執行役員
〃	山本 高宏	近畿日本ツーリスト(株)	執行役員関西営業本部長
〃	吉野 国夫	(株)ダン計画研究所	代表取締役
委員	小川 隆	山九(株)	執行役員関西エリア長
〃	廣野 研一	三菱地所(株)	大阪支店副支店長
〃	藤井 律子	(株)エヌ・プラクティス	代表取締役
スタッフ	守屋 智博	パナソニック(株)	関西渉外室企画渉外総括部長
〃	曾根 裕文	パナソニック(株)	関西渉外室企画渉外部長
〃	阿部 光太郎	トップツアー(株)	大阪支社第一営業部部長
〃	三宅 正人	戸田建設(株)	副店長
〃	大澤 慶子	(株)全関西ケーブルテレビジョン	法人営業部
〃	明新 英範	三菱商事(株)	関西支社機械・新産業金融事業部 新産業金融事業チームリーダー
〃	桂 知伸	山一精工(株)	取締役社長
〃	金澤 浩史	日本航空(株)	関西地区法人販売部担当部長
〃	寺元 賢司	(株)ミライト・テクノロジーズ	営業本部西日本統括営業部 営業企画グループ 課長代理
〃	岩井 琢磨	(株)大広	大阪ストラテジックプランニング局 コーポレートコミュニケーションセンター
〃	吉城 寿栄	京阪電気鉄道(株)	事業統括室観光担当課長
〃	木村 佳世	(株)プロスパー・コーポレーション	営業部営業一課マネージャー
〃	二宗 香苗	(株)コングレ	管理本部本部長代理
〃	森藤 晃仁	大阪ガス(株)	秘書部経営調査室課長
〃	鎌田 幸代	ピーチプロモーション(株)	司会・運営統括マネージャー
〃	山嶋 浩二	(株)りそな銀行	コーポレートガバナンス事務局 セクレタリアットオフィサー
〃	橋本 修男	西日本旅客鉄道(株)	営業本部部長
〃	横山 富三	全日本空輸(株)	大阪支店副支店長

〃	井上 裕太	ANA セールス(株)	大阪支店第二販売部法人販売グループリーダー
〃	竹中 幸三	(株)ロイヤルホテル	東京営業グループアジアマーケティング室スーパーバイザー
〃	大河原 治	椿本興業(株)	取締役執行役員
〃	中村 洋平	(株)竹中工務店	営業本部プロジェクト開発推進本部西日本3グループ副部長
〃	萩原 大作	学校法人 エール学園	校長
〃	明野 知樹	新関西国際空港(株)	秘書グループサブリーダー
〃	関 敏弘	(株)日本旅行	マネージャー
〃	塩見 正成	(株)JTB西日本	交流文化部長
〃	中西 義史	(株)三井住友銀行	経営企画部金融調査室次長
〃	中永 毅	近畿日本ツーリスト(株)	関西営業本部部長
〃	中野 裕行	近畿日本ツーリスト(株)	大阪法人旅行支店長
〃	宮尾 展子	(株)ダン計画研究所	常務取締役 研究主幹
代表幹事 スタッフ	絹川 直	(株)大林組	理事 経営企画室大阪企画部部長
〃	押尾 嘉之	(株)大林組	経営企画室大阪企画部課長
〃	矢島 健	(株)大林組	経営企画室大阪企画部企画課副課長
〃	山本 卓彦	サントリーホールディングス(株)	大阪秘書室長
〃	吉岡 淳	サントリーホールディングス(株)	大阪秘書室部長
〃	小倉 由紀	サントリーホールディングス(株)	大阪秘書室課長
事務局	齊藤 行巨	(一社)関西経済同友会	常任幹事・事務局長
〃	松尾 康弘	(一社)関西経済同友会	事務局次長兼企画調査部長
〃	本宮 亜希子	(一社)関西経済同友会	企画調査部